

「安全な飲み水の大切さを考える」

砥部町立砥部中学校

二年

伊崎

月音

いさき つきね

水は人が生きていく上でなくてはならないものです。特に、飲み水が安全であることはとても大切なことだと考えます。

私は、父の仕事のため発展途上国で生活をしていたので、水の大切さについて考えさせられることが多くありました。日本の水道水は透明で安全で直接飲むことができます。私はパラグアイやボリビアの首都で生活してきましたが、水道水を直接飲むことはしませんでした。腹をこわしてしまいうからです。そのため、ほとんどの家に一台はウォーターサーバーが置かれています。私が住んでいた家では、一週間に一回ウォーターサーバー用のボトルに入った水を配達してもらっていました。そして大雨が降った後は水道水が茶色くにごることもあるので、風呂につかることができず、シャワーできません、この水は嫌だなど思ったことがあります。でも、首都での生活はまだ恵まれていて、父から聞いた話では、地方では水道が通っておらず、乾季は井戸の水が底をついて役場の給水車を待つ生活だったり、藻が繁殖してそのままでは飲めない状況だったりするそうです。私は世界の状況について改めて調べてみました。

まず、世界では安全な飲み水を確保できない状況にある人が6.6億人に達しているそうです。安全な飲み水を安定して利用できない人の割合が最も高いのはオセアニアの44%で、これはオーストラリアの水不足が背景にあります。次に割合が多いのは、サハラ以南アフリカの32%です。アフリカでは水道のインフラ整備や浄水処理が進んでおらず、家から離れた場所に水をくみに行く女性や子供が多くいます。家庭のために水をくむ労働は、71%が女性と少女の負担だそうです。そのため、特に女の子たちは学校へ行き教育を受ける機

会は奪われ、その結果、大人になっても読み書きができない女性たちは社会に出てお金を稼ぐ機会も時間も奪われて、男女の格差が広がっているのが現状です。

また、水は飲料水だけでなく、食糧生産や経済活動に必要なものとして人間の生存を支えています。しかし、世界では人口増加や生活水準の向上、経済発展等に伴って水需要が増え続けており、水不足や水質汚濁の問題が顕在化しています。また、気候変動の影響などから、土砂災害なども深刻化しています。

これらの問題は、発展途上国の貧困層の特に女性や子供たちの社会的弱者に最も深刻な影響を与えているようです。また、汚染された水によって、下痢、コレラなどの病気にかかり、年間で50万人が死亡しているそうです。そしてその死者の多くは、乳幼児であるそうです。

このような環境の国がある中で、日本は100%近い水道普及率を達成していて、水質基準も厳しいので、だれもが安全な水を飲むことができます。日本は多くの食料を輸入に頼っていますが、それらを国内で生産する場合には必要になる水をバーチャルウォーターというそうです。そのバーチャルウォーターを発展途上国を含む海外に頼っているのと知り、水資源問題の解決に日本は積極的に携わるべきだと思いました。

私は、国が違っても全ての人々が公平に安全な水が飲めるようになってほしいです。実際に、日本は国際協力で発展途上国に対して水道のインフラ整備などで貢献していることを父から聞きます。私ももっとこの水問題について勉強し、何ができるのかを考えていきたいです。今の日本での生活では様々な方々の御努力により、当たり前のように安全な水を使うことができます。でも、水は限りある資源だということを忘れてはなりません。まずは、私が日頃から節水を心がけ、川や海などを汚さない努力を怠ることなく続けます。そうすることが、いつまでも安全な水を使い続けていけることに繋がると思うからです。